

番組審議会

第11回 BS よしもと番組審議会

■開催年月日 : 2024年8月1日(木)

■開催場所 : BS よしもと株式会社 会議室

■出席した委員(敬称略)7名中7名出席 *あいうえお順

大原鶴美 (プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー)

川上和久 (麗澤大学教授)

久保博 (一般財団法人 日本スポーツ推進機構(NSPO)理事)

品田英明 (元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長)

清水義次 (建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役) *リモート参加

竹中ナミ(ナミねえ) (社会福祉法人プロップ・ステーション理事長) *リモート参加

山田奈美香(山田・尾崎法律事務所 弁護士)

■議題

- 1.開会の辞(審議委員長)
- 2.開会の挨拶(稲垣 社長)
- 3.編成関連の報告(7月改編説明)
- 4.視聴者からの反応の共有(コールセンターレポートより)
- 5.番組審議
対象番組:
「小倉淳の47フォーカス」 #1 2024年7月5日放送
- 6.閉会のご挨拶(泉 取締役)
- 7.閉会の辞 (審議委員長)
- 8.事務局からの連絡

川上審議委員長による開会の辞に続き、社長 稲垣より「開局より2年が経ち、様々なチャレンジを行ってきた中で、皆様からのお力添えもありBS よしもとならではの番組や特性も少しずつ形になってきており、スポンサーの数も増えてきているが、より良い放送局を目指したい」という挨拶があり、審議会を開始した。

■審議の経過の概要等

1.編成関連の報告

金田 代表取締役専務兼編成制作局長より、地方創生と若手育成を二本柱とする、枠構造の変更を伴う大きな7月改編を行ったことについて、以下3つのポイントを中心に説明が行われ、全審議委員に理解された。

① 地方創生番組の更なる充実化

・地方創生と若手育成の一石二鳥を目指した「キクテレミルラジ265」を再考し『情報』と『笑い』の要素を完全に分けることを意図した新番組「発信 Live ジモトノチカラ！」を月曜～木曜の13時から16時までの3時間生放送番組として放送を開始した。

ベテランMCを起用し、『笑い』より『情報』に軸足を置いた番組内容を目指し、既に1.5倍増の視聴数を獲得できている。

・これまで「キクテレミルラジ265」金曜日の1コーナーであった「小倉淳の47フォーカス」を金曜日の17時～18時の1時間の独立した収録番組として新たに編成し、地方創生に一役買う、住みます芸人の活動の模様を中心に紹介する。

② 月曜日から水曜日の深夜に若手芸人の育成枠を下記のように新たに編成した。

・月曜日

「キクテレミルラジ265」で曜日MCを務め、将来有望と言われているイチゴによる「イチゴのタネ ～イクトと木原の芸能界成長日記～」と、今年の「女芸人NO.1 決定戦 THE W」で優勝した紅しょうがが、男性アイドルを招いてトークをする冠番組「つまみは紅しょうが 男子～！宅飲みするからウチ来いや～！」

・火曜日

吉本の上方若手落語家による「若手創作落語の会～よしもと若手噺家による創作落語バトル！～」

・水曜日

テレビ出演がほぼ未経験の出演者による「全員半人前～MC&ひな壇全員 トーク番組ほぼ未経験者でやってみた～」と「キクテレミルラジ265」で曜日MCを務め、将来が有力視される三遊間による「三遊間の街ロケルーキーズ」

③ 女性視聴者の獲得を目指し、好調な芸人の趣味や得意分野を披露する番組として

「水田信二の注文の多い料理教室」「あかまヨガスマイル～全国自撮り旅」を新たに編成した。

2. 視聴者からの反応の共有（コールセンターレポートより）

考査部より、5月～6月中にコールセンターに寄せられた視聴者からの意見についてのサマリーを報告し、全審議委員に理解された。

3. 番組審議

対象番組： 「小倉淳の47フォーカス」 # 1 （2024年7月5日放送）

初めに、当番組を監修するBSよしもと報道統括より番組概要についての説明を行い、続いて審議委員長による進行により、各審議委員から寄せられた質問については、報道統括が応答する形式で番組審議を実施した。

① 各審議委員からは、以下のような意見と質問が寄せられた。

- ・BSよしもとの指針である地方創生の意義が伝わるような、番組の幅広さ、奥深さを感じられる。
 - ・地方創生を伝える部分と若手育成の要素が混在していた部分が整理されたという効果が表れていて、番組のキレが良い。バランスがとれていれば笑いの要素もあった方が良い。また、2つの住みます芸人の活動紹介と、その他一般の地方創生を紹介する番組構成のバランスがとても良い。3つ目の話題がキーになるのではないか。
 - ・住みます芸人がその土地に根づいて活動を継続している様子が丁寧に紹介され、共感した。
 - ・小倉淳氏のコメントも的確で「ワシんところ・ポスト」出演時以来のゲストコメンテーターとのコンビネーションも良い。
 - ・今回取り上げられている特集が、来年の大阪万博の吉本のテーマである「笑い与健康」に繋がるとても大事なテーマで良かった。
 - ・当番組を「キクテレミルラジ265」から独立させた改編は大変良かった。
 - ・京野菜の紹介について、野菜以外の地図などの掲示を含め、街全体の紹介があるとよりわかりやすく、親近感もてるのではないか。
 - ・住みます芸人が、どのような経緯でその土地に住み活動することになったかのエピソードがあると良い。
 - ・1741ある各地域の自治体への啓蒙となるよう、発信し連携していったら良いのではないか。
 - ・各回の共通項を括った総集編などを企画したら面白いのではないか。アフターレポートも見てみたい。
 - ・以前放送されていた「ワシんところ・ポスト」のでの生放送時よりもリモート中継が、技術的に改善され、見やすくなった。
 - ・道の駅とのコラボ、京野菜を高級レストランに卸すなど、芸人の活動をビジネスへ発展させることができる可能性が感じられた。
 - ・SNS、YouTubeなどを活用して、より番組のプロモーションを強化して多くの人に視聴してもらえるチャンスを広げてみてはどうか。
- また、審議委員からは下記の質問が寄せられた。

・住みます芸人の活動以外の地方創生活動の紹介として取り上げられた『都市留学』の話題はユニークで良かったが、どのような経緯で採用されたのか。

・スタジオのゲストコメンテーターのキャスティングが興味深いがどのように決めるのか。

② これらの意見と質問に対し、BS よしもと報道統括より、以下のような回答を行い、理解された。

・3つ目のトピックとなる、住みます芸人の活動以外の一般の地方創生活動の紹介は、放送作家が新聞等から地方創生に即したものを取り込み、スタッフと検討して決定している。

・スタジオのゲストコメンテーターは、吉本のプロデューサーが社内外をあたりキャスティングするので、吉本以外のタレントの場合もある。

・地図などの活用で、その土地をわかりやすく紹介することについては、スタッフと協議したい。プロモーションのアイデアについても検討したい。

・中継技術の安定については、生放送から収録番組となったことで解決できている。

7.閉会の挨拶

最後に泉 取締役により「この6月の人事発令により BS よしもとの取締役となり、吉本グループの地域創生活動と BS よしもとの放送との連動強化を図る組織作りを目指したい」という旨の閉会の挨拶が述べられ、続いて審議委員長による閉会の辞が述べられ、審議会が終了となった。

■現在のBS よしもと審議会委員（敬称略）

※2024年8月現在

川上和久（委員長／麗澤大学教授）

大原鶴美（副委員長／プロフェッショナル コミュニケーションスキル マスター・トレーナー）

久保博（一般財団法人 日本スポーツ推進機構（NSPO）理事）

品田英明（元 味の素 AGF 株式会社代表取締役社長）

清水義次（建築・都市・地域再生プロデューサー/株式会社アフタヌーンソサエティ代表取締役）

竹中ナミ(ナミねえ)（社会福祉法人プロップ・ステーション理事長）

山田奈美香（山田・尾崎法律事務所 弁護士）

以上